

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会 第6回会議

日時：平成29年10月20日（金）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項

- (1) 中小規模研修会（介護関係者向け，医療関係者向け）概要について
- (2) 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会概要について
- (3) 研修情報の一元化と提供について

○協議事項

- (1) 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会当日役割分担について

3 その他

- (1) 次回の部会日程について

4 閉 会

【配付資料】

- 1 報告事項
- 2 協議事項

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会
第6回会議 出席者名簿

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
	公益社団法人 函館市医師会	○佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	岩井 祐司 ※欠席	戸井歯科診療所
	一般社団法人 函館薬剤師会	水越 英通 ※欠席	(株)はこだて調剤薬局(昭和店)
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	中村 真奈美 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院
	道南在宅ケア研究会	川口 篤也	医療法人道南勤労者医療協会 道南勤医協 函館稜北病院
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 医療総合サービスセンター
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	★部会長 酒本 清一	独立行政法人国立病院機構 函館病院 相談支援室
	北海道柔道整復師会函館ブロック	齋藤 久剛	整骨院さいと
	函館鍼灸マッサージ師連携会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	★副部会長 中村 清秋	居宅介護支援事業所 ひなたぼっこ
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子 ※欠席	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	寺田 昌弘	社会医療法人仁生会 西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	高畑 智子	訪問看護ステーション オハナ
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

○報告事項

(1) 函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会について

ア 介護関係者向け研修会について（資料 3, 4）

イ 医療関係者向け研修会について（資料 5, 6）

(2) 第 3 回函館市医療・介護連携多職種研修会概要について（資料 7～13）

(3) 研修情報の一元化と提供について

- ・ 現在までの報告

○協議事項

(1) 第3回函館市医療・介護連携多職種連携研修会当日役割分担について

ア シンポジストの選定について (資料7)

イ スタッフの役割分担について (資料14)

別紙 研修概要書

名 称	函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会～介護関係者向け～
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・「相互理解」というテーマの下，医療関係者には介護側の事情を，介護関係者には医療側の事情を知っていただく機会とし，お互いの距離や隔たりを縮め，顔の見える関係の中で更に連携を高める ・介護関係者に対しては，医療機関の病床機能やこの先の医療政策の展開を理解してもらうことで，適切な連携につなげる
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター）
日 程	①平成29年10月19日（木）18：30～19：30（予定） ②平成30年 2月26日（月）18：30～19：30（予定） ※同テーマ，同講師で2回実施します
会 場	函館市医師会病院 5階講堂 （函館市富岡町2丁目10-10 電話43-3939）
司 会	函館市医療・介護連携支援センター 佐藤 静
テ ー マ	「医療機関の病床機能の理解，この先の医療政策の展開について」
内 容	《講 師》 独立行政法人 国立病院機構 函館病院 相談支援室 医療ソーシャルワーカー 廣瀬 量平様
参加対象	市内の居宅介護支援事業所，地域包括支援センター，訪問看護事業所の職員
参加人数	約80名
参加費用	無 料
関係者参考	<p>【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】</p> <p>函館市医師会 函館歯科医師会 函館薬剤師会 北海道看護協会 道南在宅ケア研究会 函館地域医療連携実務者協議会 北海道医療ソーシャルワーカー協会 北海道柔道整復師会 函館鍼灸マッサージ師連携会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 函館市地域包括支援センター連絡協議会 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 道南訪問看護ステーション連絡協議会 道南地区老人福祉施設協議会</p> <p>【函館市医療・介護連携支援センター】</p>
備 考	アンケート実施

別紙 研修概要書

名 称	函館市医療・介護連携多職種中小規模研修会～医療関係者向け～
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・「相互理解」というテーマの下、医療関係者には介護側の事情を、介護関係者には医療側の事情を知っていただく機会とし、お互いの距離や隔たりを縮め、顔の見える関係の中で更に連携を高める ・医療関係者に対しては、介護保険の概要を理解してもらうことで、適切な連携につなげる
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター）
日 程 会 場	<p>①平成29年10月30日（月）18：00～19：00（予定） 社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 （函館市五稜郭町38番3号 電話51－2295）</p> <p>②平成30年 2月13日（火）18：00～19：00（予定） 独立行政法人 国立病院機構 函館病院 （函館市川原町18番16号 電話51－6281）</p> <p>※同テーマ、同講師で開催場所を変えて2回実施します</p>
テ ー マ	「介護保険の概要～退院を見据えた展開～」
内 容	《講 師》 函館市地域包括支援センターゆのかわ 保健係長 京谷 佳子様
参加対象	医療関係者
参加人数	①約150名 ②約60名
参加費用	無 料
関係者参考	<p>【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】 北海道医療ソーシャルワーカー協会 函館歯科医師会 函館薬剤師会 北海道看護協会 道南在宅ケア研究会 函館地域医療連携実務者協議会 北海道柔道整復師会 函館鍼灸マッサージ師連携会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 函館市地域包括支援センター連絡協議会 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 道南訪問看護ステーション連絡協議会 道南地区老人福祉施設協議会</p> <p>【函館市医療・介護連携支援センター】</p>
備 考	アンケート実施

第3回 函館市医療・介護連携推進多職種研修会（案）

日 時：平成29年11月25日（土）14：00～17：00

場 所：花びしホテル

対象者：医療・介護関係者，定員240名

※昨年度の参加者推薦依頼数と実際に参加した人数をもとに今年度も協議会参加団体に依頼する
（別紙：参加者推薦依頼文書，参加とりまとめ状況参照）

懇親会：花びしホテル（会費制3500円程度，17：30～19：00）

テーマ：相互理解～自職種を省みる・他職種を理解する～

- 目 的：①函館市医療・介護連携支援センターの実績報告
②専門職による職種紹介を通じた各職種の相互理解
③グループワークによる相互理解の増進，各職種紹介者（シンポジスト）との意見交換
④研修会後の懇親会の開催

構 成：実績報告，職種紹介，事例紹介，グループワーク，発表（意見交換）

※別紙：タイムテーブル参照

※総合司会 酒本部長

○実績報告：

「函館市医療・介護連携支援センター」の実績報告を通して，センターの機能と役割を紹介。

講師：函館市医療・介護連携支援センター 佐藤 静 (10分間)

○職種紹介：※座長 川口先生

「専門職ができること～15職種の紹介」

※事前配布資料（はこだて入退院連携支援ガイド）に沿って自分の職種紹介。（各3分間）

○事例紹介：※中村副部長

(5分間)

「脳梗塞を繰り返し徐々に身体機能が低下しながらも在宅での看取りに至ったケース」

(別紙)

○グループワーク：同職種で実施。30テーブル（8人掛け）

<テーマ>①「自職種として果たすべき役割」 (25分間)

②「他職種へ聞いてみたいこと」 (25分間)

<進め方>

・各グループで司会・書記を決めて自己紹介等実施してもらう (5分間)

- ・事例をもとに上記①②を話し合ってもらおう（目安の時間参照）
- ・①は、事例の中で自分たちの職種の基本となる役割、及び+@を他職種に理解してもらうことをイメージして話し合ってもらおう
- ・②は、聞きたい職種ごとに聞きたい内容を整理して記入してもらおう
- ・シンポジストと部会メンバーにファシリテーターも努めてもらう
- ・前半、①の時間、ファシリテーターは自職種のテーブルを回り必要に応じ介入
- ・後半、②の時間、ファシリテーターはテーブルを回り、発表②の候補となる自職種への質問を1つ選別する
- ・②の候補を選別したら、事務局へ報告し事務局でPCに入力する（発表時の準備）
- ・各テーブルにA4の用紙2枚準備。それぞれ①②の内容を書記が記入していく

<発表（意見交換）>

- ① 居宅、看護師、リハビリのグループ（あらかじめ依頼）それぞれ1グループずつに報告してもらう。A4用紙は発表者の手元に置き会場は口頭で聞く（7分程度）
 - ② 座長が②について、その分野の職種代表、もしくはグループに質問し答えてもらう。1職種1質問。事前に選定しPCに入力したものをスクリーンに映し出す（30分程度）
- ※①②のグループ内での検討内容や質問への回答等は後日センターHPに掲載します。

<総評> 参加した医師に依頼（未定）

※シンポジスト

- ①医師（訪問診療をしている医師に依頼）
- ②看護師（訪問看護の経験のある看護師に依頼）
- ③保健師（難病や障害等々の行政機関に所属している保健師に依頼）
- ④歯科医師（訪問診療している歯科医師に依頼）
- ⑤歯科衛生士（在宅ケアをしている歯科衛生士に依頼）
- ⑥薬剤師（在宅ケアをしている薬剤師に依頼）
- ⑦管理栄養士・栄養士（在宅・施設での経験がある方）
- ⑧リハビリスタッフ（訪リハ連協に依頼）
- ⑨柔道整復師（在宅支援の経験がある柔道整復師に依頼）
- ⑩鍼灸師・マッサージ師（在宅支援の経験がある鍼灸マッサージ師に依頼）
- ⑪相談員（MSW・施設相談員どちらもの経験がある方・ワーカー協会に依頼）
- ⑫地域包括支援センター職員（包括の保健師、主任ケアマネ、社会福祉士に依頼）
- ⑬ケアマネジャー（居宅のケアマネに依頼）
- ⑭介護職員（ホームヘルパーの経験がある方に依頼）
- ⑮福祉用具専門相談員

- ・部会メンバーには当日のお手伝いもお願いしますが、可能な範囲でシンポジストとの兼務をお願いしたい。
- ・部会に参画いただいている団体を通じて、シンポジストと部会メンバー以外のお手伝いを推薦い

ただく。(包括連協, 居宅連協, MSW協会から1名ずつ依頼予定)

※今後の予定

- 10/3 コア会議
- 10/4～ 研修部会メンバーへの発信, 参加者推薦依頼の発送
- 10/20 第6回研修作業部会～当日のスタッフ役割分担について
- 10/31 参加申し込み締め切り, シンポジストの選定
- 11/中旬 座長, シンポジスト(ファシリテーター)会議

別紙 研修概要書

名 称	第3回 函館市医療・介護連携多職種研修会
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月から稼働している「函館市医療・介護連携支援センター」の実績報告によりセンターの機能と役割を理解する。 ・15職種による職種紹介とグループワークを通じて、自職種を省みる機会と多職種を理解する機会を作り、多職種連携の基盤づくりをする ・関係多職種間の「顔の見える関係づくり」や率直な意見交換の場として、研修会終了後に懇親会を開催する。
共 催	函館市（函館市医療・介護連携推進協議会） 函館市医師会（函館市医療・介護連携支援センター）
日 程	平成29年11月25日（土）14：00～17：00（予定） ※ 研修終了後、職種を超えた交流を目的とした懇親会を予定
会 場	花びしホテル （函館市湯川町1-16-18 電話57-0131）
司 会	独立行政法人 国立病院機構 函館病院 相談支援室 医療ソーシャルワーカー 酒本 清一様
テ ー マ	「相互理解～自職種を省みる・他職種を理解する～」
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「函館市医療・介護連携支援センター 実績報告」 演者 函館市医療・介護連携支援センター 医療ソーシャルワーカー 佐藤 静 ・職種紹介「専門職ができること～15職種の紹介」 ・グループワーク（最大30テーブル／8人掛け） テーマ：自職種として果たすべき役割 他職種へ聞いてみたいこと ・意見交換
参加対象	市内の医療・介護関係者
参加人数	約240名（見込）
参加費用	無 料（懇親会参加費用は別途徴収 ※金額は3,500円程度）
関係者参考	<p>【函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会】</p> <p>北海道医療ソーシャルワーカー協会 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 函館歯科医師会 函館薬剤師会 北海道看護協会 道南在宅ケア研究会 函館地域医療連携実務者協議会 北海道柔道整復師会 函館鍼灸マッサージ師連携会 函館市地域包括支援センター連絡協議会 函館市訪問リハビリテーション連絡協議会 道南訪問看護ステーション連絡協議会 道南地区老人福祉施設協議会</p> <p>【函館市医療・介護連携支援センター】</p>
備 考	アンケート実施

《 多職種研修会参加取りまとめ状況 》

平成28年度研修実績

団体名	依頼人数	全体数	GW参加	懇親会参加
函館市医師会	若干名	13	7	8
一般社団法人 函館歯科医師会	16	15	14	15
一般社団法人 函館薬剤師会	8	9	9	8
公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	40	44	44	4
道南在宅ケア研究会	5	5	5	4
函館地域医療連携実務者協議会	8	9	6	5
一般社団法人 北海道ソーシャルワーカー協会 南支部	32	30	30	9
北海道柔道整復師会函館ブロック	8	11	10	11
函館鍼灸マッサージ師連携会	8	13	12	13
函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	32	30	30	11
函館市地域包括支援センター連絡協議会	32	30	30	17
函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	8	8	8	2
道南訪問看護ステーション連絡協議会	8	9	9	3
道南地区老人福祉施設協議会	32	28	28	9
行政（渡島総合振興局）	2	2	2	0
事務局（部会メンバー13・センター職員4・保健所3）	20	14	0	14
合計	259	270	244	133

※平成29年度の参加依頼人数については、平成28年度の参加人数をもとに、1テーブル8人のグループ分けも考慮した人数になっております。

平成 29 年 10 月吉日

様

函館市医療・介護連携推進協議会
多職種連携研修作業部会 部会長 酒本 清一

函館市医療・介護連携支援センター
センター長 榎木 賢三

「第 3 回 函館市医療・介護連携多職種研修会」の開催について（参加者推薦依頼）

貴会におきましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当協議会では、函館市医療・介護連携支援センターと共催で、多職種の皆様を対象とした、別紙研修概要書の内容で研修会を開催することといたしました。

本研修会につきまして、貴会会員の皆様にも是非ご参加を賜りたく、参加者の推薦をお願い申し上げます。なお、参加者の職種バランスを考慮し、〇〇名を定員（※）として参加を受け付けております。

※ 目安として設定させていただきましたが、他団体からの参加者の状況も確認しながら、参加人員数については柔軟に対応させていただきますので、まずは参加希望をお取りまとめいただければ幸いです。

なお、会場の都合により後日参加者の人数を調整させていただく場合もございますのでご了承ください。

※ 会場の駐車スペースがございませんので、公共の交通機関等ご利用して頂きますようお願いいたします。

ご多用の折に大変ご迷惑をおかけしますが、定員に基づき参加者を取りまとめて頂き、別添の「参加者名簿」に記載の上、平成 29 年 10 月末日までにご連絡をお願いいたします。

[お問い合わせ先]

函館市医師会病院内

函館市医療・介護連携支援センター 担当：長谷川 奈生子

Mail : ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp

電話：43-3939 FAX：43-1199

タイムテーブル

平成29年11月25日（土） 午後2時～午後5時（開場 午後1時30分）

時刻	タイトル	主な講師	分類	時間	司会
13:30	開場	司会		—	司会… (※事務連絡)
14:00	開会挨拶／趣旨説明	司会 本間会長	他	5分	
14:05	講演	佐藤	講演	10分	
14:15	職種紹介	座長	説明	45分	
15:00	休憩	司会	他	5分	
15:05	事例紹介	中村	説明	5分	
15:10	グループワーク説明	座長	説明	5分	
15:15	グループワーク	座長	演習	55分	
16:10	休憩	司会	他	5分	
16:15	グループワーク発表	座長	演習	37分	
16:52	総評	司会 *医師	演習	3分	
16:55	閉会挨拶／アンケート依頼／懇親会案内	司会 主催代表	他	5分	
17:00	アンケート記入, 会場移動 (懇親会出席者)	—	他	—	
小計				180分	
17:30	懇親会			90分	
19:00	(終了)				
合計				270分	

「脳梗塞を繰り返し徐々に身体機能が低下しながらも在宅での看取りに至ったケース」

《 患者情報 》

患者：Aさん 男性
診断名：脳梗塞，脳血管性認知症
家族構成：娘一人（同居）
既往歴：高血圧症

《 経過 》

- 65歳 平成4年10月脳梗塞による中度の右半身マヒありもADL自立され，娘さんと自宅で生活されていた。
- 68歳 脳梗塞再発され，意欲低下，発語の減少，日常動作を忘れるなどの認知症状が出現。
- 69歳 脳梗塞再々発。入院先でリハビリテーション実施も，排泄に一部介助必要な状況となる。
- 72歳 4度目の脳梗塞再発。嚥下障害残り，水分摂取時とろみ剤使用。また，歩行時と食事摂取時一部介助，排泄時全介助となる。
- 74歳 両下肢筋力低下に伴い，自力歩行不良。徘徊が少なくなり行動範囲が縮小。自宅での食事は，娘さんが工夫して準備。
- 75歳 同居の娘さんが，椅子から転落し肋骨骨折されたため，介護困難となる。
- 78歳 発熱により入院。誤嚥性肺炎と診断。今後は経口からの食事摂取はリスクが高いと判断され，胃瘻造設。退院後はベッド上での生活となり，胃瘻の管理等も娘さんが実施。
- 80歳 嘔吐が続き，呼吸状態も不良。在宅酸素開始。定期的な吸引等の医療処置も必要となる。
- 81歳 在宅での看取りとなった。

